

(様式第4号) 交流・文化施設等整備検討委員会 (第13回・第6回専門委員会) 概要

1	会議名	交流・文化施設等整備検討委員会
2	日時	平成21年7月15日(水) 午後4時から6時5分まで
3	会場	上田駅前ビルパレオ 2階会議室
4	出席者	日端委員長、龍野副委員長、美山副委員長(専門委員会)、成沢委員、山浦委員、山崎委員、小池委員、寺島委員、岡村委員、西澤委員、浦委員、竹花委員、山岸委員、小川委員、柄沢委員、清住委員、桜井委員、竹内委員、宮下委員、宮本委員、佐田委員、津村委員、関田委員、滝澤委員、【欠席委員】土本委員、伊藤委員、関口委員、森委員、田中委員、太田委員、
5	市側出席者	大澤政策企画局長、小市教育次長、宮川政策企画課長、中部文化振興課長、中山公園緑地課長、清水都市計画課長、伊藤交流・文化施設建設準備室長、近藤政策企画担当係長、若林建築課建築担当係長、室賀交流・文化施設準備係長、徳田主査、
6	公開・非公開等の別	公開・一部公開・非公開
7	傍聴者1人	記者2人
8	会議概要作成年月日	平成21年7月16日

協議事項等

1 開会(大澤政策企画局長)

2 委員長あいさつ

今日は検討委員会と専門委員会の合同という形だが、前回からは都合が合う専門委員も検討委員会に出席している。現在の課題は、中間報告に対する市民意見やその後の委員意見を最終報告にどのように取り入れるかという事。今日は懸案であった大小ホールのありかたについて1つの答えを出したい。これがクリアできれば、後は全体の修正ということで、スケジュール的にも可能ではないか。

3 議事

(1) 最終報告に向けての課題等の整理について

事務局:(資料の説明)

委員長:大小ホールを分けて議論したいが、その前に欠席委員からの意見書について紹介されたい。

事務局:まず大ホールについて「各団体の事情により席数の希望は異なるが、使用頻度と市の規模を踏まえると1,500~1,600の範囲が妥当と思う。小ホールについては、既存施設との住み分け、使用希望の高さから席数は250~300。座席は固定席とすべきで、市民意見を踏まえると、平土間式の選択は有り得ないと考える。妥協案としてのロールバック式(電動で壁に収納できる固定座席)は使用時の静寂性からも問題がある。」このような意見が提出されている。

委員長:それでは大ホールについて発言されたい。

委員:学校関係のホール使用について意見を述べたい。今、子ども達が一堂に会しての音楽会などの開催が難しい状況。2回に分けての開催や、親御さんたちが鑑賞できないなどの現状から、できれば座席は1,700席に近づけたい。小ホールは300席程度が妥当と考えており、ロールバック式は席が十分に固定されないために発生する雑音、音響、照明面での不安が残るため固定席を望む。

委員:検討委員会では概ね意見が出尽くしたと考えており、ここで専門委員からの意見を聞きたい。

委員長:資料に大ホールの席数別建設費などが示されている。これを踏まえ専門委員から発言されたい。

委員:一流のオペラ、バレエ、オーケストラの公演においては、必要な舞台機構などの他、十分な席数を備えているかが非常に重要で、クラシックの、特に外国のものは座席が少なければ一席のチケットが非常に高額となる。例えば県内の新聞社やテレビ局が一流の公演を企画した時、ここに1,700~1,800の非常に機能の良い施設があれば、全県で1回しかできない公演を上田でやろうという可能性が出てくる。そうすると、市民が最高の芸術を楽しめると同時に、県内のみならず群馬県などからも人々がやって来て町が活性化される。それらを考えると、1,700~1,800の、十分な音響や舞台機構を持ったホールがこの東信の中心には必要ではないか。

委員:今の意見は事実だが、例えば東京の会社が完全に自分達のリスクで公演を企画する可能性は非常に低く、ホールがその公演を買取る必要がある。その時に、興行主となったホール側が1,700

や1,800席のチケットを売ることができるのか。次に、一級芸術の公演を行うとしても、また学校の音楽会を、という意見もあったが、果たしてこれらが年に何回行われるのか。日本の興行の中で、1,800席などの大ホールを埋める公演は決して多くはなく、そういう意味でもホールは「大は小を兼ねない」。何%の稼働率を想定しているのかは分からないが、開館した結果30~40%では、計画時に賛成していた市民も批判を始める。その時に、この席数に賛成した人は「この規模にはこういう理由がある」と言ってあげなければ、運営者は運営できなくなると思う。席数の議論には細心の注意を払い、ホールの使命と目的をこの時点で明確にしておいた方が良いと思う。

委員：ホールが満席が何回あるかという事は、結局そこに市がどれだけ予算、つまり皆さんの税金を投入するかという事。1,700席でも300席でも、やる気が無ければ、観たいと思わせなければ、或いは観たいと思って市民も参加しなければ、どんな良いアーティストでも満席にはならない。その上で文化の集合・発信場所を皆さん自身で作っていくことが重要。これはもう精神論。

委員：長野県伊那文化会館は1,512席だが、小中高の芸術鑑賞には中途半端で、確かにある程度の大きさがあつた方が効率的。しかし年に数回の事業のための大規模というのは理解が得られにくいと思う。それと、私たちの検討委員会には文化関係の専門家も入っているが、それは社会の中ではむしろ小数派だという自覚も必要。かつて県民文化会館に関する予算折衝の際、当時の知事から「一部の愛好家のために多額の税金を使うということではできない」という発言があつた事も事実。こうした事実も念頭に置きながら規模を検討することが必要。検討委員会として希望しても、市民に受け入れられなければ無意味。結論的に大ホールは1,500~1,600席が適正ではないか。

委員：先程も話が出たが、運営において最も重要なものは「やる気」であり、「何としてもこの施設を一流のものにする」という情熱を持った人を中核に据える必要があると思う。芸術監督も含め、この点も併せて考えていかなければ、正直言って市の運営では難しいと思う。

委員：この重要な局面で考えたいのは、まず、上田のように面積の広い市では、施設に訪れやすい人とそうでない人がいるため、聴衆を市の人口に置き換えて良いのかという事。また、将来の人口動態を十分踏まえる必要があるという事。次に、ランニングコストについて、この資料ではハード面での費用が示されているが、公演を行うためにはソフト面の費用も必要。ハード面の費用だけでも市民1人あたり約1,000円の計算になるが、これを皆さんが納得できるのか、リアリティを持って考えてほしい。また施設には黙っていても人は来ないわけで、お客を増やすために、どこのスタッフも血みどろの思いをしている。その努力をずっと続けていく体制をどのように作るのか、運営者とそれを応援する市民との輪ができるか、そういう見通しをぜひ考えてほしい。今は建物の計画をしているわけだが、この点についても考えた方が上田の未来のためだと思う。

委員長：押さえておくべき事は、まずJT開発地には大ホールだけでなく、小ホールや美術館、交流施設、また非常に集客力のある大型商業施設が建設され、全体として大きな拠点性を持つという事、次に、これまでソフト面の議論がなかったが、最終報告にはこれも重要事項として記載すべきという事。それから、資料のランニングコストに関して、稼働率はどのように考えているか。

事務局：稼働率について具体的に想定している数値はないが、利用が高まるよう十分検討したい。

委員：県外のホールでは、1,800席ありながら、その規模が使い切れず1,200席で仕切りを設け、この仕切りを外す頻度は非常に低いという例がある。一方では、上田のシンボルとして一定の規模は確保しなければならない。大ホールの席数については、1,500~1,700の幅で検討委員会でも専門委員会でも意見が分かれている。これをいかにまとめるか集中的に考えるべきではないか。

委員長：今日の資料では建設費とランニングコストについて、1,500席と1,700席の差がそれぞれ示されている。この数値を根拠にすると、建設費に対しての3億というお金はそれほど大きくないように思われる。ランニングについてもソフト面は抜けているが、この200席の差は1,300万円。つまり1,500と1,700の間にはそれほど差がなく、シンボル性や、また学校関係での使用を考えると1,700の方が良いのではないかと、この様に考えて良いのか、それともこの200席の差には他の部分で大きなリスクがあるのか、この点について意見を聞きたい。

委員：ホールを借りる立場から言えば、実際に使える規模は1,600か1,700。公演においては機材を客席に設置し、またそれによって見切り席（舞台が見えにくい席）が生じるため、100席程度は使えなくなる。先程1,800席では規模が大きいため、仕切りを設けて使用しているという話があつたが、それは運営者の努力が足りないのではないか。魅力のある催しであれば1,800でもお客さんは入ると思う。また「大は小を兼ねない」との話もあつたが、無論「小は大を兼ねない」わけで、個人的には、市の人口規模から見ても1,700が良いと思う。1,800は正直言って少し多い。1,700でも公演によっては見切り席を引くと1,600を切るかもしれない。そうすると他で計画さ

- れている1,500席のものとはあまり変わらないため、1,700の席を作った方が良いのではないか。
- 委員：民間のホールであれば今のような議論が重要だが、今回の計画は地方の公立ホールであり、利用するのは8割程度が市民のはず。だから市民の皆さんが適切だと言えば、その席数は適切だと思う。上田は東京から近く、興行の際の経費が少なくて済むという大きな利点がある。その利点があるとはいえ、また、市が事業費としてホールにどの程度配分できるか、それによっても席数に影響するとは思いますが、やはり、市民の方々にとって適切な席数かどうか考えてほしい。
- 委員：地域文化の振興という点では、文化団体や学校からの使いやすさが重要。質の高い様々なジャンルの催しも必要だが、そのために大きな施設を作るとするのは、先程の仕切りのある1,800席のホールも、当初はそういう目的で作り、努力もしたが実現できないでいる。一流のスタッフを揃え、外部から全てを持ってくれば地元の文化振興にほとんど利用されない。様々な施設を見ると使いやすさの面では1,500席が良いのではないか。大きな施設を作り、また努力してもなかなか稼動しない、そうすると市民の目は厳しくなる。ある程度規模は抑えていくべきではないか。
- 委員：市民公聴会や個人的に市民の皆さんから話を聞く限り、この施設は中途半端にすべきでないと声が多い。他市との比較や上田の特徴を出すという点、また今日の資料から客観的に判断すれば、1,700が良いのではないか。ただ一方で1,500であっても、コストを抑えながらソフト面などでも何か特徴を出す方策があるのか、何か案があればお聞きしたい。
- 委員：ここで一度原点に戻りたい。というのは、市民のための施設、聴衆は市民だという考え方の上に立って、8割は市民のため、2割は外部の人が訪れることによる経済効果と、こういう考え方が必要ではないか。大ホールの席数について1,500～1,700という中、偶然現在の上田は16万都市であり、根拠があるわけではないが、そこから1,600という数字は考えられないか。
- 委員長：先程「大は小を兼ねない」という話が出たが、今日の資料には、客席可変装置について示されている。「大は小を」とまではならないが、規模を縮小することができる。先程の仕切りのついた1,800席のホールのように、使用されない装置では意味がないが、実際の状況はどうか。
- 委員：ホールの使用目的が明確であれば装置は不要。しかしジャンル・規模共に多目的に行うホールは導入している。例えばまつもと市民芸術館は、サイトウキネンでオペラを行うための1,800席と、市民要望が多く、またホールの主事業でもある演劇に適した空間としての1,200席を両立するため可変装置が導入されている。ただし、個人的には無いほうが良いと思っている。
- 委員：大都市では、オーケストラホールなど、用途を特定した施設がそれぞれあるが、地方の場合の一つのホールを多目的にするため装置が導入される。しかし今回の上田のホールはそうではなく、例えば8割は地元の人を使うのであれば、その人達にとっての使いやすさを前提に考えるべきかと思う。外部の興行主は、そこで決定された席数に対して、使用するかの判断をするだけ。
- 委員：一方では中途半端なものは良くないという市民の声もあり、1,700がこの地域の特徴的な席数として、他に無いものができるのであれば、その規模を目指したい。
- 委員：市民の使いやすさも重要だが、アンケートでは上田でも一流の公演を観たいという声が多く、それらが行われるような条件、つまり音響効果や、チケット1枚当たりの単価が安くなるような席数を持たせること、これも市民のためだと思う。市が自主事業のために用意できる予算は決して多くはなく、そうした機会は少ないかもしれないが、可能性としては広がっていくのではないか。それと今の議論は、例えば800席と1,500席という大きな差を比較しているのではなく、200席の差で経費が極端に変わらないのであれば、50年先を展望し、1,500ではでき得ないものを1,700によって可能にするという方が市民のためではないか。
- 委員：資料にもあるが、1,500席で作ると千曲川沿いに同規模のホールがほぼ同時に3か所できることとなる。また上田の特色、学校関係の子ども達のため、建設費でも大差が無いことから1,700席を希望する。後はやはり官民一体、市民と一緒に事業を盛り立てていく、企業の方にもスポンサーとして協力いただき、文化や芸術を通じて人間性を呼び覚ますことが必要。それと、(仮)アリオ上田が映画館の建設を断念したが、映画のまち上田という観点からも、スポンサーの一人としてぜひ映画館について再考してもらいたいなど、市から働きかけてほしい。
- 委員：私は先程、利用率を考えると1,500～1,600席が適当ではないかという話をしたが、客席可変装置を導入する前提であれば1,700席でも良いと思う。長野県伊那文化会館では、地元の音楽団体の方などから、2階席を閉めて1,000席で使えるように改装してほしいと、多くの要望が出されていた。今回のホールでも可変によって、ある程度「大は小を兼ねる」ことも可能ではないか。
- 委員長：大ホールについては後で私の方でまとめたい。次に小ホールについて意見をいただきたい。
- 委員：小ホールにも、固定席を含め大ホールと同様の機能が必要ではないか。地域の文化団体の使用

にあたっては、平土間の300席では使いにくく、団体規模に応じた施設の方が、むしろ文化振興、学校等の利用にも適すると思う。展示に関しては、美術館のほか交流施設も使えるため、小ホールについては、希望の多い固定の500席が妥当ではないか。

委員：これまで私達が美術館の面積2500㎡で了解してきた理由は、小ホールを含めた共通部分を展示スペースに使用するという前提によるもの。そういう意味で小ホールの平土間を希望してきているが、これがもし固定席という形になると、共通部分の会議室や練習室なども展示スペースとして使えるように、例えば展示に対応した照明など、そういう点で配慮、改良してほしい。

委員：この施設は交流・文化施設であって、交流の意味で、お互いに我慢し合ってより良いものを目指そうと議論をしているはず。分野は違っても同じ文化団体として、それぞれ不満はありながらも形にしていくべきではないか。長野県伊那文化会館の小ホールも「多目的は無目的」と、音楽、美術関係者の双方から悪評があったが、それでもお互い多目的に使いながら利用率が上がっていたわけで、「全てか無か」ではなくて、ある程度のところで調整していくべきではないか。

委員：それぞれの立場でもっともな話だが、立場ごとの主張を繰り返すと切りが無いと思う。これまでの意見を踏まえて、市側の意見を聞くというのはどうか。

委員長：私達の最終報告は市に対して行うわけで、その事前調整として市と協議をすることはあっても、市から検討委員会に対して具体的な提案があっても困る。だから今日の段階で、特にホールについては私達の意見を一案に絞り、その後市とも調整を行うという事でどうか。それから小ホールについては、中ホール希望の意見もあったが、全体のバランスから判断して300席程度の固定席にして、今回は交流・文化施設という複合施設であるため、美術展示は共通空間などを使えるように工夫をするという、付帯条件を持たせれば良いのではないか。そして大ホール席数について、1,500から1,700の間で議論してきたが、その開きの根拠があまり明確でないままここまで来ている。特に1,500と1,700との違いが、非常に大きな意味があるのではないかと認識してきたが、今日の資料では、この数字を大きいと見るか、危惧する程でないとするかは、また別の判断があるかもしれない。が、今日皆さんが感じている雰囲気では、1,500でなくてはならないという根拠にはなっていないのではないか。だとすれば、上田市の持っている町のランクや、学校の生徒などで使用するサイズなどを考えると1,700がよいかも。ただし運営していくためには、理念的な話も含めて、ソフト面などをうまく合わせて書かなければ、数字だけ一人歩きさせるのは非常に危険。そのようなことで次回までに事務局で素案をまとめることにしたいがいかがでしょうか。

委員：市民の皆さんが良いと言うのなら・・・。

委員：あとは運営で皆さんがどれだけ協力できるかという事。運営で非常に多額の税金を使っても、それを良しとする、バックアップできる市民の皆さんをいかに多く作るかということだと思う。どこの施設でも3年経てば反対派の方が非常に増えるが、それに耐えられるのであれば、大規模な公演もできる規模の方が便利。小ホールについては固定席という話が出たが、ロールバック式についても技術が非常に進んでおり、例えばサンポートホール高松の第2小ホールは、ファッションショーなどのイベント用だが、ロールバック座席の上を歩いてもぎしぎしという音は出ない。イベント用でもこのように高いレベルのホールが実現できる。もちろん費用の問題もあるが・・・。

委員長：今日の資料では、ロールバックと平土間の差は約2億円となっている。

委員：大ホールについては、いつまでも平行線の議論を行うわけにはいかないと理解をしても良いと思うが、小ホールについては固定席で、鎌倉美術館や北九州芸術劇場にも600～700席の中ホールがあるように、できれば500席、或いはそれに近い形のものでできればありがたい。

委員長：分かりました。今日は時間もオーバーしているので、小ホールの議論は次回またやりましょう。

(3) その他

事務局：次回は8/11に開催したい。次回は最終報告の素案をお示しし、ホール以外の部分についても議論をお願いする。なお検討委員会という形ではあるが、都合の合う専門委員にも出席されたい。

4 閉会（伊藤室長）

* 会議概要は原則として公開します。会議終了後、1週間以内に行政改革推進室へ提出してください

* 非公開及び一部非公開としたものについては、その理由を記載してください。